

第三者意見



九州大学主幹教授・都市研究センター長
馬奈木 俊介 氏

国連のSDGs(持続可能な開発目標)は、株式会社NIPPOさんの「わたしたちは確かなものづくりを通して豊かな社会の実現に貢献します」という企業理念に通じます。土木建設・道路舗装業を通じて、CSR活動を全社的に取り組む姿勢が感じられるレポートです。

今回の報告書で、SDGsへの取り組みの第一歩として社内勉強会を開催されました。経営層含め70人出席されたことを特集として取り上げ事業を通じて社会に貢献する姿勢を示されています。

ここでは、NIPPOさんとSDGsを本レポートから読むことができる内容でまとめましょう。SDGsには17の目標があります。今回のレポートから読み取れるのは、SDGs目標の中でも、**目標9.「産業と技術革新の基盤をつくろう」**にあります「**強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る**

への取り組みです。その具体像は、**9.4「2030年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術および環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。」**がNIPPOさんの理念に対して優先順位が最も高いものであると思いました。

そして、次に**目標11.「住み続けられるまちづくりを」**にあります「**都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする**」とその中でも、**11.3「2030年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、全ての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。」**さらにその次に、**目標8.「働きがいも経済成長も」**の「**すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を推進する**」への優先順位で考えることができます。

また今回は、社外のステークホルダーの声として地域の町内会会長と寄付先のNPO法人会長の声を掲載しています。これは、**目標17.「パートナーシップで目標を達成しよう」**の「**持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する**」への取り組みといえます。

ぜひ来年度は、各報告内容もSDGsへの重点を置いていただいて、さらにGRIスタンダードに沿った開示まで進めていただくことを期待します。

ご意見をいただいて



管理本部 総務部長
櫻井 佳彦

馬奈木先生には、当社の取り組みについて貴重なご意見をいただきお礼申し上げます。今年度より、当レポートの所管が環境安全・品質保証部から総務部に変更となり、初めての発行となります。

企業は社会との共存なくして、事業活動を行っていくことは困難です。その延長線上にあるのがSDGsではないかと思っており、当社はそれに向けて、ようやく第一歩を踏み出しました。SDGsに定められた17の目標のうち、当社が取り組むべき目標について、優先順位をつけながら今後進めてまいります。また、今回新たに支援先・地域の方といった社外のステークホルダーの方にもご意見を頂戴しました。あらためて外部の方から当社がどのように見られているのか認識でき、有意義であったと感じています。

今後とも、SDGsへの取り組みを前進させ、社会への貢献を図り、従業員一人ひとりがCSRを当然のことと認識し、行動してもらえよう、レポート内容の充実に向け取り組んでまいります。